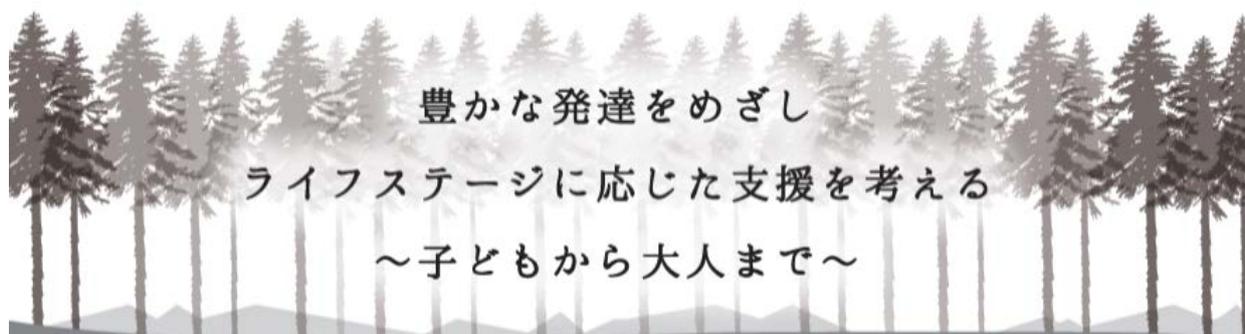


全国障害者問題研究会 北海道支部 第36回夏期学習会開催要項



豊かな発達をめざし
ライフステージに応じた支援を考える
～子どもから大人まで～

ごあいさつ

明神もと子

第36回全障研北海道支部夏期学習会実行委員長
(帯広大谷短期大学)



2014年9月、全障研北海道支部 第36回夏期学習会を帯広で開催することになりました。私の手元に『全障研北海道支部 第6回学習会帯広集会の報告集』があります。1975年8月、帯広グランドホテルで開催、参加者268名、その他保育所預かりの子ども20名となっています。まだ、養護学校義務制スタート以前のこと、教育権の保障と発達保障理論について熱い議論がありました。私は理論講座の講師をしたのですが、夜、部屋をいっぱい埋めた参加者の真摯なまなざしを今も思い出されます。

ほぼ40年を経ての今日、制度上のシステムや環境の整備などに大きな進歩があるものの、障害のある人たちをめぐる課題はより複雑になっています。少子高齢化の成熟社会となった現代は、新しい問題や困難をかかえています。子どもたちの幸せのために尽力している人たちがたくさんいますが、専門分野や立場を越えた連携が求められます。違いがあっても共通点でつながることで、実践も理論も深くなることでしょう。

企業経営の論理が福祉や教育の場にとり入れられ、見える成果が求められています。だからこそ、子どもたちが安心して安全に生きることができる環境で、要求が大切にされて、ていねいに保育や教育がおこなわれることを追求したいと思うのです。若者の「生きづらさ」も深刻です。支援者としての力量が問われることでしょう。

自然に恵まれた十勝らしく「森のいのち」のおはなしなども用意できました。のびやかなふんいきのもとで、参加者の皆さんに、明日からの活力を得ていただきたいものです。うつくしい秋の2日間、おおいに話し合い、学びあいましょう。

■ 主 催 ■

全国障害者問題研究会北海道支部
第36回全障研北海道支部夏期学習会実行委員会
・全国障害者問題研究会帯広サークル ・帯広保育問題研究会
・全国障害者問題研究会釧路サークル ・十勝生活指導研究会

■ 後 援 ■

北海道 北海道教育委員会 帯広市教育委員会
社会福祉法人北海道社会福祉協議会 (申請中のものを含む)

■ と き ■

2014年9月27日(土)28日(日)

■ と ころ ■

とかちプラザ 帯広駅南出口前 徒歩2分
住所: 〒080-0014 北海道帯広市西4条南13丁目1
電話:0155-22-7890

■ W e b ■

<http://oberi2014.jimdo.com/>



■ 日 程 ■

9月27日(土)

10:30~11:40	11:45	12:45	13:00~15:00	15:15~16:45	17:00~18:00
おはよう講座 「映画で学ぶ特別支援教育」 二通 諭氏 (札幌学院大学)	受付	開会式	記念講演 タイトル「教育や保育で悩んだときに立ち返りたい発達理解～『発達保障』の出発点～」 木下 孝司氏 (神戸大学 発達科学部 人間発達環境学研究所)	シンポジウム テーマ「困難を抱える子どもたちと私たちの役割」 コーディネーター 上田 敏彦氏(北海道立精神保健福祉センター医師) シンポジスト 木下 孝司氏(神戸大) 小淵 隆司氏(北海道教育大学釧路校)	特別講演 テーマ「森に感じるいのちのつながり」 小寺卓矢氏 写真家・写真絵本作家 十勝管内芽室町在住
4F 会議室402			とかちプラザ 2F レインボーホール		

9月28日(日)

9:15	9:30	12:00 ~13:00	13:00~15:00	
受付	各分科会(7分科会) 講座(2講座)	休憩	各分科会(7分科会) 講座(2講座)	終了
とかちプラザ 1F 2F 3F 4F (レインボーホールを除く)				

■ 参加費 ■

	一般(非会員)	2014年度会員 & 現地実行委員会会員	学生
2日間参加	3,500円	2,500円	1,000円
1日のみ参加	2,000円	1,500円	500円

■ 申込先 ■

FAX申し込み先 FAX 050-5548-2677 Eメール jimukyoku@oberi.net (菅原まで)

- *保育の体制はありません
- *全障研への入会を希望される方は、申込用紙の送金内訳の全障研会費の欄に「3,000」と書き、年会費 3,000 円を添えてください。
道支部会報年6回、全障研しんぶん年12回、各種研究案内がもらえます。また、全障研の研究学習会参加費が割引になり、今回の夏期学習会も会員扱いになります。

■ 参加費入金方法 ■

- ①郵便振替 02770-1-5221 加入者名：全国障害者問題研究会帯広サークル
- ②当日入金 当日受付にてお支払いいただけます。

■ 申し込み締め切り ■ 9月22日(月)

- *介助が必要な方の締切は9月5日(金)
- *当日の飛び込み参加も歓迎いたしますが、資料がお渡しできない場合があります。
- *昼食は各自でご準備ください。

■ お問い合わせ ■

携帯 090-8705-4100 メール w-only.nabe@docomo.ne.jp (渡邊まで)

■ 日 程 ■

1日目 9月27日(土)【全体会】

10:30 **おはよう講座** (4F 講習室402) 「映画で学ぶ特別支援教育」札幌学院大学 二通 諭

札幌学院大学 二通 諭氏の著書『映画で学ぶ特別支援教育』(2011)とそれ以降3年間の雑誌連載稿をもとに映画の中の障害者像を熱く語ります。障害者映画(1990年代)から特別支援映画(今世紀)にシフトしてきている状況を捕捉しながら、特別支援教育と社会の行方を考えます。

※受講者は講座修了後2階レインボーホールへ移動し、受付をしていただきます。

11:45 **受 付** (2階レインボーホール)

12:45 **開 会 式** (2階レインボーホール)

13:00 **記 念 講 演** (2階レインボーホール) 教育や保育で悩んだときに立ち返りたい発達理解
～『発達保障の出発点』～

<講 師>

木下 孝司 氏 (神戸大学大学院発達科学部人間発達環境学研究科教授)

<講師プロフィール>

京都大学大学院教育学研究科で学び、静岡大学を経て神戸大学に勤務。2009年より現職。専門は発達心理学(京都大学博士・教育学)。

<主な著書>(共著含む)

「自閉症の理解と発達保障」(共著, 2012年)「子どもの発達に共感するとき」(単著, 2010年)《全障研出版部》「子どもの心的世界のゆらぎと発達」(共編著, 2011年)《ミネルヴァ書房》



講師から

子どもの「困った行動」に悩んだり、実践の組み立てで迷ったりすることがあると思います。そんなとき、子どもの事実や実態をみんなで語り合い、子どもの願いを想像することで、たくさんのヒントが得られます。この講演では、子どもが愛おしくなり、実践が楽しくなるための発達の視点について考えていきたいと思います。

15:15 **シンポジウム** (2階レインボーホール) 困難を抱える子どもたちと私たちの役割

コーディネータ 上田 敏彦氏(北海道立精神保健福祉センター医師)

パネリスト 木下 孝司氏(神戸大学大学院発達科学部人間発達環境学研究科)

小淵 隆司氏(北海道教育大学釧路校)

17:00 **特 別 講 演** (2階レインボーホール) 森に感じるいのちのつながり

小寺 卓矢 氏 写真家・写真絵本作家 十勝管内芽室町在住



講師から

大小・強弱・高低・長短…じつに様々な在り様の生き物たちが織りなす森の豊かさ、美しさ。人知れず木陰に佇む名もなき草一本にも、その立ち姿には存在の尊厳が満ちています。

そんな森の風景に惹かれて写真を撮り、写真絵本を紡いでいます。講演聴講後のひととき、森の写真映像と著作写真絵本の読み聞かせで、ほっとひと息ついていたいただけ嬉しです。

2日目 9月28日(日)【分科会&講座】 9:30~15:00

《分科会1~7・講座1~2》9:30~15:00 (休憩12:00~13:00)

○ 分科会

	分科会名 (内容など)	助言者 (敬称略)
第1分科会	障害児保育 気になる子どもたちの保育実践を幼児期に関わりのある多くの方たちと交流します。	滝澤 真毅 (帯広大谷短大) 角田 隆二 (帯広小学校)
第2分科会	学齢期の支援教育と子ども理解 困り感を持つ子ども達の行動をどのように理解し、支援していけばよいのか? 特別支援学校や小中学校での具体的な指導や学級づくりについて実践交流をします。	長沼 睦雄 (道立緑が丘病院) 瓜屋 謙 (十勝生活指導研究会)
第3分科会	青年が地域で生きるために 思春期・青年期を迎え、発達障害等のさまざまな困難を持つ青年達が地域で暮らす上で大切な課題を話し合います。当事者や保護者・高校教師が報告します。	菊地 信二 (幕別高校) 岡山 英次 (チャレンジキャンパスさっぽろ施設長)
第4分科会	労働と生活支援 福祉のシステムが変わり、障害者の労働現場、就労支援の現状も大きな変わり目となっています。帯広、十勝、釧路などの就労や生活支援について、当事者・保護者・そして支援者、それぞれの立場から語り合い、交流します。	古川 誠 (社会福祉法人柏の里めむろ オークル施設長) 村田 修 (静内ペテカリの園施設長)
第5分科会	重症心身障害児者の現状 重症心身障害児病棟や在宅での養護学校訪問学級の実践を紹介し、子どもたちの発達や生活について交流します。	明神 もと子 (帯広大谷短大) 加藤 法子 (社会福祉法人楡の会 きらめきの里施設長)
第6分科会	貧困・虐待・非行の現状と支援 発達障害児者は犯罪に巻き込まれ、重大化するケースがあります。この分科会では帯広少年院や高等養護学校の実践などが報告されます。「レッサーパンダ事件」取材していた北海道新聞記者佐藤一(はしめ)氏にも助言をいただきます。札幌学院大学の二通 諭氏にコーディネータをして頂き、助言もいただく予定です。	岩浪 健 (札幌矯正管区第三部長) 佐藤 一 (はしめ) (北海道新聞記者)
第7分科会	早期発見・療育一専門機関の役割一 帯広・十勝では早くから「早期発見・療育」の取り組みが行われてきました。そして今、幼児期から就労までを一本につなぐ発達支援システムの確立が求められています。この分科会では芽室町の子育て支援システムの取り組みの報告を受け、専門機関に求められている役割について話し合います。	藤原 敦美 (帯広児童養育センター所長) 佐々木 浩治 (足寄町児童デイサービスセンター 所長)

○ 講座

	講座 (内容など)	講師
第1講座	子どもの発達とわらべうた 「子どもの日々の生活や遊びの中に意味がある！」 就学前の子どもたちの遊びから、子どもの発達について考えます。	小淵 隆司 (北海道教育大学釧路校) おてんとさん (わらべうたサークル)
第2講座	発達保障入門講座 私たち全障研では「問題行動は発達要求」と考え、取り組みを進めてきました。では、「発達要求」とはどんなことでしょうか? 現場の具体的な事例から議論し、理解を深めたいと思います。	戸田 竜也 (北海道教育大学釧路校)

